

教員名 長坂 泰之

「人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ」への参加
～多様な共創から生まれる多彩な社会人基礎力～

その他(コンテスト参加)
その他
(一般社団法人社会人基礎力協議会)

総合力 = 多彩な社会人基礎力

多様な共創を表現したプレゼンテーション用の資料

企画・活動概要

社会人基礎力育成グランプリでは、長坂ゼミの活動について「多様な共創から生まれる多彩な社会人基礎力」と題して紹介しました。長坂ゼミは、PDCAサイクルを意識した活動をしてきました。また、様々な取り組みに臨むにあたりゼミ生は『学生主体』を心がけて活動してきました。

長坂ゼミは大小12の活動を学生主体でチャレンジしてきました。どれもなかなか経験できない体験ができ、大きく成長できました。そこで近畿地区予選ではこれまでの活動を『総合力』をキーワードに発表をしました。



プレゼンテーションのトップ画面は千林商店街での活動

経緯・背景・目的

「人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ」とは、経済産業省がとりまとめ定義した人生100年時代の社会人基礎力の育成に資する各大学の取り組みと、その取り組みで成長を上げた学生らの多様な実例を集わせ、これらを審査、表彰し、その実例の周知を図るものです。2020年度のグランプリは、コロナ禍であればこそ「社会人基礎力」の育成・成長を評価しようとするもので、流通科学大学で長坂ゼミを含めて2ゼミが参加し、近畿地区予選に参加した9チームが、その取り組みについて14分間(教員4分、学生10分)のプレゼンテーションに臨みました。



教員と真剣に意見を交わすゼミ生

取り組む課題

ゼミ生は、長坂ゼミの取り組みのうち、ある1つの取り組みを取り上げ、「1点突破」で臨むか、あるいは様々な取り組みに挑戦したことを「総合力」として取り上げ挑戦するかの判断に迷いました。ゼミ生間で意見を交わした結果、「総合力」で挑むこととしました。



本学(学生)の役割

発表に当たっては、15名のゼミ生のうち5名が中心となって、これまでのゼミ活動を振り返り、発表内容を検討しました。当日は、3人が順番にプレゼンテーションを実施、残りの2人が裏方でサポートしました。



活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

発表の内容は以下のとおりです。ゼミ活動の第1段階の2年生後期。沖縄の商業合宿計画を皮切りに5つのプロジェクトに取り組みました。第2段階の3年前期。東北の合宿計画をはじめ、6つに取り組みにチャレンジしました。そして第3段階の3年後期に取り組んだのが被災地ボランティアプロジェクトです。これら12の活動を学生主体でチャレンジしてきました。1つ1つの活動は小規模であるがなかなか経験できない体験をし、大きく成長できました。ゼミ生はそのことを『総合力』をキーワードに、代表的な3つの取り組みを中心にプレゼンテーションをしました。

3つの取り組みとは、「元町商店街でのコロナ禍調査」、「千林商店街での昭和写真展」、そして、「被災地における学生ボランティアの可能性」です。

プレゼンテーションのまとめとして、「全ての活動を通じて、未来に繋がる社会人基礎力を身に付けることができ、コロナ禍で思うような活動ができなかったのは事実だが、ゼミ活動が制限された中でも歩みを止めず常に成長を求めて活動することができました」と締めました。

そして最後に、ゼミで身に付けた能力として、①自分達の可能性を広げるために培った前に踏み出す力、②より良い活動を行うため常に協議し続ける考え抜く力、③教員を含めたゼミ生全員が一丸となり挑戦し続けたチームで働く力の3つを挙げました。

審査員からは、長坂ゼミの発表に対して、「元気に発表される学生に、活動への積極性と達成感を感じた。交流した先輩社会人の経験話を傾聴し、深く理解しようとしている」「長坂先生の意向をくみ取り、全員が前向きに、そして楽しく課題に取り組んでいる様子が非常に伝わった」との評価をいただきました。

指導教員および関係者の紹介



商学部 マーケティング学科 協力先:
准教授 長坂泰之 一般社団法人社会人基礎力協議会

専門は、商業まちづくり、流通政策、中心市街地活性化政策、震災復興政策(中小企業診断士(経産省)、地域活性化伝道師(内閣府)) 参加学生:
長坂ゼミ清水健吾君をはじめ総勢15名

教員名

山川 拓也

企画名

「人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ」への参加

商品開発型
地域活性化型
企業



企画・活動概要

2020年度「人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ」の本学代表として、2021年1月の書類審査を経て、2021年2月21日にオンラインで開催された近畿地区大会に出場し、最優秀賞に選出された。その後、2021年3月17日の全国大会(各地区予選を突破した6チームによる決勝大会・オンライン)に近畿地区代表として出場した。

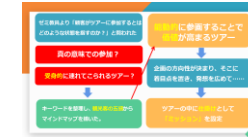
経緯・背景・目的

「人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ」とは、経済産業省がとりまとめ定義した人生100年時代の社会人基礎力の育成に資する各大学の取り組みと、その取り組みで成長をとげた学生たちの多様な実例を集め、これらを審査・表彰し、その実例の周知を図るものである。学生が行った活動内容と「社会人基礎力」の成長を評価するものであり、以下の評価項目ごとに採点し総合的に評価される。

- ①「前に踏み出す力」が、どれだけ成長したか
 - ②「考え抜く力」が、どれだけ成長したか
 - ③「チームで働く力」が、どれだけ成長したか
 - ④ 大学で学ぶ一般教養や専門知識を生かすことができたか
 - ⑤ 下記3つの視点について、どのように意識するようになったか
- 【目的: どう活躍するか】企業や社会との関わりで、活躍する将来の自分の姿
 【統合: どのように学ぶか】今後、企業や社会との関わりの中で自らが学んでいく方法
 【学び: 何を学ぶか】自分の得意・不得意、将来を考え、今後、高めていく専門性や知識、教養、意識等の目標
- ⑥ 大学の取り組みが、社会人基礎力の育成に対して効果的なものであったか

取り組む課題

2020年前期に実施の社会共創活動(第11回架空発「学生と旅行会社でつくる」海外旅行企画コンテストへの取り組みならびに(株)読売旅行との協働)を踏まえ、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の成長の度合いを可視化する。



本学(学生)の役割

チーム内でのリフレクション(振り返り)を実施し、プレゼンに向けた資料類を作成してオンラインで発表すること。



活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

学生のプレゼンテーションでは、以下の主旨に沿った発表がなされた。今回の取り組みによって、学生たちは「自らの活動を振り返って内省し、今後につなげる」という貴重なプロセスを経験することができたものとする。

- ①「前に踏み出す力」…企画に取り組む中で考えがまとまらない時など、正直、投げ出したい時もあったが、「自分たちがやらなければ、誰も助けてくれない」といった現実の中で、責任をもって最後までやりきったことは、大きな成長点だと思う。また、主体的になることで、気が付けばやりがいと達成感を得ることができた。
- ②「考え抜く力」…旅行商品は形がないモノなので、付加価値を創出することの難しさをあらためて実感した。アマチュア旅行者とは異なり、観光のプロフェッショナルを目指す上での苦労と楽しさを同時に知ることができた。そのために「妥協せずに考え抜く」ことに挑戦し、自分たちなりの考えを表現できたことが今回の成長点だと思う。
- ③「チームワーク」…3本の矢の教えのように、1人の技術やノウハウだけに頼りすぎず、仲間と協力することでより良い結果を生み出せることを実感した。またグローバル化する社会の中で、交流がうまく進まない時にこそ、柔軟な思考力をもって丁寧なコミュニケーションを取ることが、異文化包容力を高めることに繋がると理解した。

指導教員および関係者の紹介



人間社会学部 観光学科
准教授 山川 拓也
専門: 観光経済学、観光商品論

観光を通じた異文化体験、観光の現代的消費構造、観光における「意味」の消費に関心を寄せる。